

二本松 観光ガイドブック

もくじ

〈特集記事〉

- 偉大なる「X」 2～3
- お城山 城内散策 4
- 戊辰悲話の地 5
- 若き日の独眼竜 5
- 八幡太郎伝説を訪ねて 6
- 祭りを楽しむ 7
- 二本松の自然 8～9
- 二本松のアウトドア 10
- 文化と体験 11
- 二本松の特産、道の駅 12
- 温泉・宿泊施設 13
- 市内マップ 14～15
- 年中行事・アクセス 16

レンタサイクル情報

二本松は坂の多い町です。駅観光案内所でレンタサイクルを扱っておりますのでご利用ください。

二本松駅観光案内所

利用時間および料金 (カゴ付き自転車)

時間	種類	電動アシスト自転車 設置台数:4台
(9:00～17:00)の3時間以上～8時間以内		500円
(9:00～17:00)の3時間以内		300円

※返却時間を守ってください。

申込方法

二本松駅観光案内所で使用申込書に記入、身分証とともに提出ください。

問い合わせ先

二本松駅観光案内所
TEL0243-22-0785



久保丁坂

写真右：提灯は1台につき約300個、一晩に1500本を超えるローソクが使われ、そのローソクを取り替える若連の手際も見どころのひとつ。

写真下：宵祭り、元亀谷ロータリーの広場に7町の太鼓台が集うと、艶やかな紅提灯のあかりが一層観客を魅了する。



福島県重要無形民俗文化財



二本松の提灯祭り

毎年

10/4

10/6

二本松神社の例大祭。

今から約370年前(1643年)丹羽光重公が二本松城主として入部、その後「よい政治を行なうためには、領民にまず敬神の意を昂揚させること」と考え、寛文元年(1661年)「御両社(二本松神社)が遷宮されたのち、寛文4年(1664年)6月に竹田・根崎が行った神輿渡御に本町・亀谷が同調して、同年8月15日に御両社祭礼として営んだことから始まったといわれている。

最もにぎわいを見せるのは、全ての町内が揃う初日の宵祭り。



丹羽 光重 公

(大隣寺蔵)

二本松藩 丹羽家代々

代	藩主名	在職
初代	光重	1643-1679
2代	長次	1679-1698
3代	長之	1698-1700
4代	秀延	1701-1728
5代	高寛	1728-1745
6代	高庸	1745-1765
7代	長貴	1766-1796
8代	長祥	1796-1813
9代	長富	1813-1858
10代	長国	1858-1868
11代	長裕	1868-1871

豊臣秀吉から「家紋としたがよろう」との言葉があつて、この紋と定められたという伝えもある。

丹羽長秀公の孫にあたる光重公が1643年に二本松

に入部。以来明治時代を迎えるまで丹羽氏の治世は続いた。領内の神社のなかには先述の二本松神社のように、この丹羽家ご家紋の使用を賜ったものがあり、蕨などにその姿を認めることができる。二本松市内を散策の際は、シンブルであるがゆえに力強い、偉大な「X」を探すのも楽しい。

特集 偉大なる「X」

10月、暮れなずむ秋の二本松駅前人が集まり始めるころ、駅ほど近くの二本松神社の参道にも提灯の灯りが点される。

提灯には、大きく「X」が描かれている。提灯祭りに初めて来られた方は、まずその、宵闇に浮かび上がる「X」に驚かれるに違いない。

実はこれは現代人が連想する、「違う・誤り」という意味での「バツテン」ではなく、

二本松藩主・丹羽家の家紋直違紋(すじかいもん)、「通称・違い棒」である。よく見ると、現代の「X印」とは様相が異なることが分かる。織田信長のもと、織田四天王と云われ勇猛で知られた丹羽長秀公以来の丹羽家ご家紋である。

この家紋の由来は諸説あり、一説には、もともと長秀公の馬印(大将の存在を示

すしるし)は、竹の枝に金の短尺をさげて飾りつけたものであって、「えづる竹に金の短尺」と称されていたが、合戦が終わって、この馬印をみたら、奮戦のために短尺は散つて一枚だけの短尺が、バツテン十字状に残っていたので、それが、丹羽家の紋となったというもの。また他説には、合戦のあとで、血の付いた刀を袖で拭いたあとに、バツテン状に血のりがついたので、

① 大隣寺



③ 隠津島神社本殿



いろいろな所に隠れた「X」。あなたは全部見つけられましたか？

② 二本松神社



(提灯祭り 祭礼日 撮影)

④ 霞ヶ城算輪門



(桜まつり開催時 撮影)